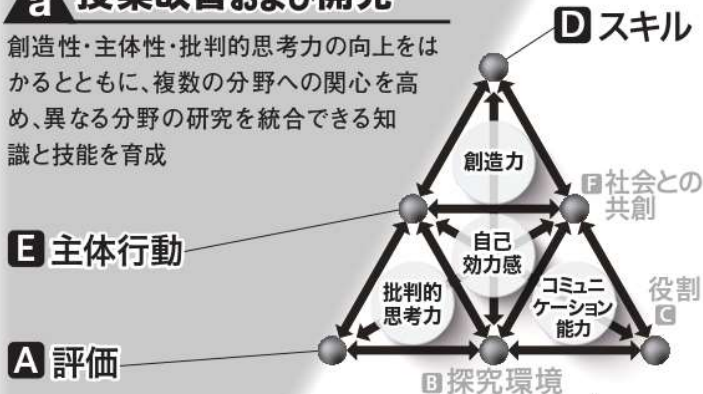


# 主体性を持ち、多様な要素を 有機的に構成できるクロスオーバー型 科学技術人材の育成

自身の専門分野を深めるとともに分野をまたいだ協働的な学びによって  
複数の答えを探究していく知の統合ができる人材を育成する。

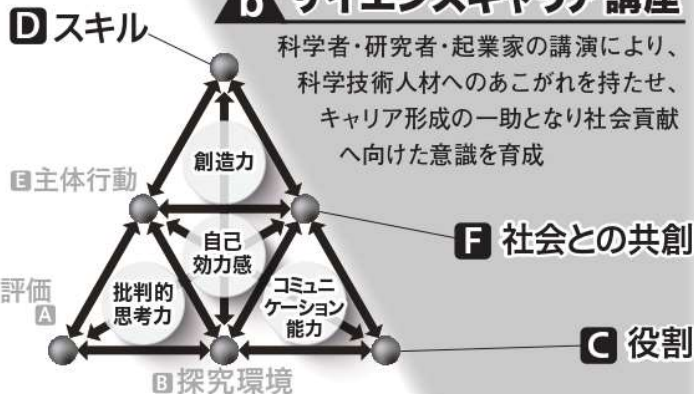
## a 授業改善および開発

創造性・主体性・批判的思考力の向上をはかるとともに、複数の分野への関心を高め、異なる分野の研究を統合できる知識と技能を育成



## b サイエンスキャリア講座

科学者・研究者・起業家の講演により、科学技術人材へのあこがれを持たせ、キャリア形成の一助となり社会貢献へ向けた意識を育成

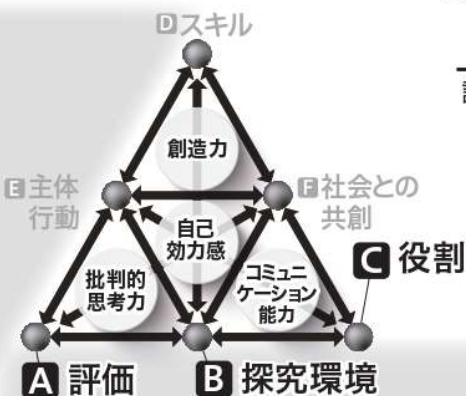


## e 学びの技

主体性の核となる手段保有感を持たせるために、情報の整理と考察、プレゼンテーション、論文など探究スキルを育成

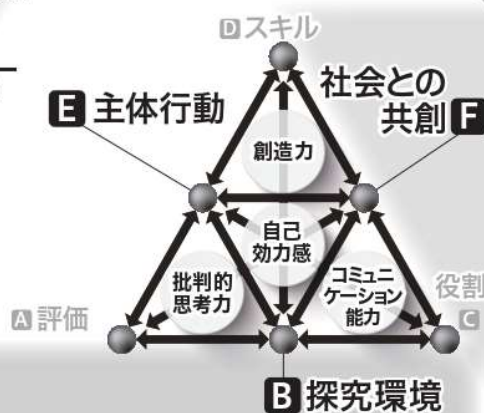
## f 自由研究I~III

課題研究の中で協働的な学びが自然に発生する環境を構築することで、異なる分野の研究を統合できる知識と技能を育成



## g 科学系クラブ活動

コンテスト・地域連携・企業連携・研究機関連携で得た知見を活かし国際的に活躍できる科学技術人材を育成



## c 探究学習研究会

発表と研修の機会を通して複数の分野に関心を持たせ、達成経験を味わうことで、主体性を涵養しコミュニケーション能力を育成

## d 国際教育プログラム

世界の学際研究についての知見を広め、海外への大学進学者の増加と世界で活躍できる人材を育成

## 探究学習教育の最適化

探究活動システムを構築することで、社会との共創を実現し、分野をまたいだ協働的な学びによって複数の答えを探究していく知の統合ができる人材を育成する。このシステムを機能させることで創造力、批判的思考力、コミュニケーション能力がバランスよく身につき、自己効力感の醸成が期待できる。また、それぞれの取組において量的・質的分析を行い、因果関係に基づく教育手法を提案することで、効果・検証の解像度が向上し、対象生徒に最適な探究学習の教育が可能となる。

A) 批判的思考力とともに主体性を評価することによって、自ら目標を設定し、振り返り、責任をもって研究活動する能力（エージェンシー）が育成できる。【評価】

B) 学年・分野・教科科目を越えて交流できる環境（コミュニティ）を作ることによって、他者と協働できる機会の増加とともに自己効力感が向上し、学校だけでなく国を越えて探究活動への参加が推進される。【探究環境】

C) 探究の方法は個々の状況により多様な取組が考えられるため、生徒は自身の活躍できる役割を認識するとともに、教師はそれぞれの生徒に対して個別最適な教育を常に模索する必要がある。【役割】

D) 様々な教材によってスキルを身に付けさせることによって手段保有感が生じ、達成経験に繋げることができる。【スキル】

E) 言語活動の充実をはかり、オーセンティックな課題に向き合わせることで知のネットワーク化（精緻化）が促進され、協働的な学びに向かうことができる。【主体行動】

F) 分野をまたいだ統合的な知によって複数の答えを探究していくことでリーダーシップを発揮して社会問題と向き合うことができる。【社会との共創】